



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.13
文責 芹川博文
7月10日(金)

「大人になった時 住み続けられる地球にするために」

～ 環境 I SO委員会の発表から ～

「私たちが大人になった時にも、住み続けられる地球にするために」という言葉が刺さりました。

今週の児童集会は環境 I SO委員会の発表でした。隈府小独自の I SO宣言。節電と節水、残菜ゼロ、そしてゴミを落とさず自分から拾うことが呼びかけられました。真剣に訴える子どもたちの姿。その委員会発表や感想発表を聞きながら、「これは、そのまま大人へのメッセージ」だと感じました。そして自問しました。「この子たちが大人になった時、本当に住み続けられる地球になっているだろうか」。



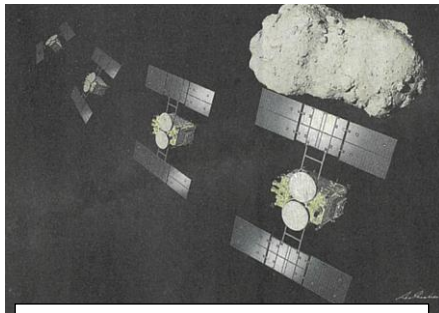
私が子どものころ、いや平成の前半ごろまでは、この「やばい暑さ」は感じませんでした。子どもたちも思いっきり外で遊び、泳いでいました。私が小学生の頃の夏休みと言えば、ラジオ体操で始まり、午前中はクワガタやセミ取り、午後はかまぼこ板の名札を持ってプール（当時は川も）へ。夕立の後は一気に涼しくなり、縁側で昼寝をしていると「雷さんから、へそば取らるっぞ」と注意されました。エアコンはなく、低学年ごろまで夜は蚊帳（かや）で寝ていました。

今週、どうしても寝苦しくエアコンをつけて寝ました。消し忘れて朝方までつけっ放し状態。「しまった」と思って消した後、夜明け前の外に出ると、意外にも、涼しい風が吹いていました。自然から無言の警告を受けた気がしました。

「その良さを最大限に引き出すこと」

～ 小惑星探査 はやぶさ2の部品を作った会社社長の言葉より ～

校長室に直径1 cmほどの小さなコマがあります。上手く回すと、4分間以上回り続けるこのコマには、「ナカヤマ」と会社名がローマ字で記してあります。実はこの会社、小惑星探査機はやぶさ2の部品を作った会社です。菊池市の隣、菊陽町にあります。



はやぶさ2のイメージ（熊日新聞より）



今週、はやぶさ2の記事が新聞の1面を飾りました。はやぶさ2の任務の一つは、小惑星が地球に衝突するのを防ぐ「地球防衛」とのことですから壮大なミッションです。同時に、精密さも求められます。ちなみに今回のミッションは、「沖縄から北海道の1円玉を射抜くぐらいの難しさ」とのこと。ミクロの正確さが求められます。そんなはやぶさ2の部品を作った会社の社長さんの講演を聞いたことがあります。話の中で、「どんなに精密な機械や部品を何千何万個と製造しても、実は全く同じにはなりません。どこかに違いがあります。われわれ人間ができることは、その機械や部品の癖や特徴を理解してその良さを最大限に引き出していくことです」との言葉が強烈な印象として残っています。

人にも重なると思いました。その人の良さや特徴、いわゆる「違い」を「豊かさ」として受けとめ、いかに調和して生きていくか。成長只中の子どもたちなら尚更です。毎日の子どもたちの素直な感動や感性。当然、思い通りにいかない壁にぶつかったりもします。しかし、それらの経験を通して社会性や、やり直す力などを身につけ、自立（自律）に向かって成長します。

職員室に入ると、笑みをこぼしながら子どもの日記を読んでいる一人の先生の姿。その先生曰く、「ホント、子どもって面白いですね。この日記もそうですし、その前は、教室の落とし物カゴに、ミニトマトが入っていました。誰のトマトが分からなかったからでしょうね」。

無限の可能性をもつ子どもたちの、光る感性や小さな成長を見守る幸せが伝わってきました。